

田村教祖様の衣装箱には、分厚い原稿用紙が納められておりました。きけば昨年ものしたワイン酒多飲日記は、生涯初めてつけた日記であったとのこと。そして今回はいよいよ60年の波瀾万丈の半生を、倉谷の静寂の地でまとめてみる…とのことでありました。

ところが、まあ、何でありまして…原稿不足に悩む編集長は「いきなり大作をと思うから筆も重くなるのではございませんでしょうか？この頃の小説家は、連載物で書き溜めてそれが後には大作にまとまるようです。会報毎に少しずつ、思い出を語ってみるのもコツなのではないでしょうか？」とご進言。

「すぐ乗るタチで」と早速送っていただきました。まことに有り難いことです。

そんなふうにも、気軽に青春の一コマ、日常のエピソードなどなど…多くの皆さんに語っていただくとうれしいのですが…。

原稿求む！

万年大学生のすすめ

0期 田村 昭夫

Ist das das Leben? Ja, noch einmal!

(これが生だったのか、よし、それならもう一度!)と云うニーチェの言葉に私は励まされた。息子が来年大学進学の時を迎えるのを機会に、私はもう一度学生に戻りたい。そして物理や数学を学びたい。クラブは無論フットボール。そして死ぬまで学生の身分でいたい。

考えてみれば、大学とは知的遊園地が本来の姿である。英語のschool(学校)はラテン・ギリシャ語のschola(余暇)に由来する。停年退

職者が暇を持て余して知的刺激を求めて集う場所が学校である。断じて20歳前後の若者達だけに独占させる場所ではない。税金によって成り立っている国公立大学は特にそうだ。学びたい者は誰でも入れる場所にすべきである。少子化の進む現在では尚のこと、大学の生き残りをかけて、社会人入学を促進すべきである。

どうでもいいが、わが金沢大学はなんと不便な場所に移転したことか。学生が角間まで足を延ばすには相当に覚悟のいることである。教授も魅力ある講義をしなければ学生は集まらないだろう。楽問(がくもん)を愛する諸君！
noch einmal!

北の都の思い出 (I) 卒業研究

0期 田村 昭夫

去る6月6日の夜、工学部の前で野宿していると、物質化学工学科の上田教授に出会った。早速、私達がお世話になった当時の上田俊三名誉教授に、私が又金沢に戻ってきたことを連絡して下さった。上田先生には卒研で大変お世話になり、奥様にも下宿のことで御心配かけた。

その晩は先生のお宅で泊めてもらうことになった。ビールを飲みながら、先生は京都での学生時代の思い出話をして下さった。

上田先生の卒研は、石橋雅義先生(元金沢大学長)の下で分析化学を修められた。卒研の締切も間近に迫ってようやく有機試薬の合成が出来たと云う。従って実験時間が少なく、データの量が不足して論文の枚数も少なくならざるを得なかった。

それで上田君は一計を案じた。「字を大きくすれば論文の枚数も増える」と。結果は大成功。石橋教授から「君の論文が一番読み易かった。他の学生達のは字が細かく長過ぎて、読む気がしない」とお誉めの言葉をいただいたという。

石橋教授を上田教授に、上田君を田村君に置き換えたら、そのまま私の思い出話になるのである。

北の都の思い出 (II)

工学部食堂委員会

机の引き出しの下から1964年1月に工学部食堂委員会の行った「嗜好調査書」が出てきた。

当時私は食堂委員会の「味見委員」という要職にあって、日夜、学食の改善に腐心していた。味見委員の仕事は厨房に自由に出入りし、飯を只食いして文句をつけることだ。私にとってこれ以上のはまり役はなかった。

当時の食堂には5、6人のおばさんが居た。ある時、カレーライスがどうも酸っぱい妙な味がするので、作り方を聞いてみた。おばさん達が云うには

「学生さん達はカレーライスにソースをかけて食べているから、はじめからソースをいれてカレーを煮込んだ」

とのこと。私はおばさん達に

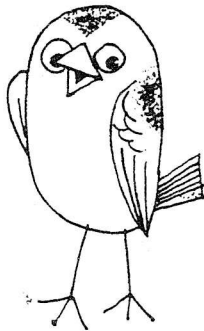
「香林坊のレストランで本物のカレーを試食してきて下さい」

と云って金を渡した。おばさん達は喜んで出掛けていった。

次の日私が厨房に入ってゆくと、おばさん達が皆、私のところへ来てお礼を云う。

「昨日、香林坊の不二家でカレーを食べてから、作り方を教えてもらったがや。今日からうまいがになったじ、食べてまし。」

とのたもうた。



97年度15期会報告

—伊吹山高原キャンプ編—

＜幹事は会報への報告をもって任務終了とする＞と、勝手に決めたのはいいけれど…野外キャンプの準備に奔走した宇野さん夫婦のことを思うと、これ以上のノルマはお気の毒で…。それにこれから原稿を待つと、秋の小屋酒場の連絡がつかなくなるかも…。せめて、語調を変えて、報告致しましょう。

昨秋小諸で、いつものように「素面のうちに」次回幹事を宇野氏に決めて、宴会に突入。その日から彼はある知恵も、ない知恵も絞っていた訳ですが、二世達も親離れを始めた今、このあたりで一丁キャンプでもやらにゃあ、ただのオジンとオバン軍団に成り下がる…が、華の15期に彼が抱いた危機感でありました。かくして「伊吹山高原でキャンプをしよう!」の大本営発表は高らかに打ちならされたのでありました…。

それぞれ事情のある方を除き、大人20名、子供10名の参加が確定。しかし、これもいつものように、というよりいつも以上に夏休みが近づくにつれそれぞれの都合ができてキャンセル相次ぎました。仕方がないとは思うものの、多くの方に喜んでいただけるのが幹事のやり甲斐ですからねえ…野外のたいへんさを覚悟で取り組んでいるのだから一層がっくりの一時もあったようですが、スーパーマン宇野氏は気を取りなおし、最後の直前確認に精を出されたのでありました。

8月2日、台風後のぐずぐず天気もようやく一段落。夏らしい日差しがじりじり照りつける米原駅にまず集合。前回から半年。その間には、高村・石田両君の追悼集編集に結構連絡が行き来した事もある、久しぶりという感じがしません。今日のために、6人乗りに買い換えたという車2台を含め、車4台を連れ最後の買い出し。目指す伊吹山は猛暑に霞んでおりました。

ゴンドラ手前の駐車場に車を収め、唯一現地へ直行の舟田さんちのノマドに高張る荷物を乗せ、

あとの団装は手分けしてゴンドラの人に。宇野夫人は先に3合目に上がり、テント確保をして待機しておいでました。

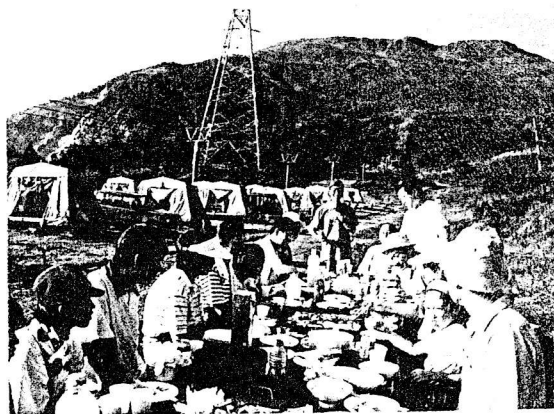
(5年前に彼が来た時の記憶では、3合目までの林道状況が悪く、一般車で通行は無理と判断。ところが…テントサイトへは続々と車が上がってくる時代になっていたのです。先行した夫人はこれを伝えようと夫の携帯電話を何度も呼び出すも…。でもゴンドラはゴンドラで高度感もあって好評だったようです。

今後のために。3合目まで一般車も上がってきます。伊吹高原からも、携帯電話は使えませんでした。)

石川県の山を走り回っている舟田さんちの方は、あっけなくキャンプ場についてしまい、ずらりと並ぶテント群にびっくりしておりました。御前峰を拡大したような斜面をぞろぞろ登っていく人達が、カメラの「あおり」で覗いているような感じで見上げられました。見下ろすかっこうのゴンドラ高原駅からは、15期の善男善女が上がってくる所でした。

まず広げるものを広げて…とタープ設置にかかります。テーブルを広げ、冷やすものはバケツにつけて…。椅子に座ってホッとすると、さすが高原の爽やかな風を感じることができました。宇野さんから、今回の企画の経過や、あとの予定を聞きます。夜行登山をする「物好き」は舟田家御一行様だけのはずでしたが、明日は山岳マラソンがあることや、この暑さでは日中はきついぞで、皆で2時起きにチャレンジしてみることにしました。何しろこうしている間もぞろぞろ登っていくし、ゴンドラは終日運転になっていて、どうもこの山はワングル仕込みの感覚ともずれているようなのです。

と、一組の父子が登場。16期清水重仁さん親子でした。小屋酒場の時お誘いしたのを、都合をつけて来てくれたのです。さらに午前中はまだ診察をしていたという祖父江さんも登場。これで大人14名、子供7名の参加者数となりました。会費支払いの段では、いくつまでが子供か？でもめたよ



うです。その件は、〇〇さんちの子供なら、20歳を過ぎても子供なのだと決まりました。(そんな歳までついてくるか!) そんな子供じみた親をよそに、本物の子供達は虫取りをしたりテントの中でゲームをしたり…。

さて、キャンプならではのバーベキュー。楽しみでもあり、まあテレビも何もないとそれしかすることがない面もあります。こまめな働きぶりを子供にびっくりされているお父さんもいました。3台のバーベキューテーブルを並べ、今はくっきりと晴れ渡った伊吹山をバックに乾杯。ここに集えた人もいくつかの無理や不義理をしなければならなかったと思います。それでもよかったと思える一時…。早々にビールがなくなってしまいました。ロング缶24本にまだそれぞれの持ち込みが何十本かあったのに。そのどれだけかを飲んだ清水さんはしきりと高村さんに訴えていました。BHに掛けてあるあのボロボロの赤布をどうかもらって欲しい…。何より高村夫人が参加すると聞いて彼は是非とも伊吹山へと思ったそうです。揃ってあの赤布(白山-BHPW完全縦走記念)の前でお酒が飲めたら…何度でもあの時のことを楽しめたのにね。そんなことがかえって私達をつないでくれているようにも思えます。そういえば1週間後に横井さんの3回忌もあります。宇野さんと佐野さんが出席してくれるということで、寸志もその場で集めました。

山が輝いて、それから色が沈み始め、星が瞬き出して…それでも、次から次と登山者が…。いつもなら深夜宴会になるのに、今回は「明日は2時起き!」「登らんのは、朝食を用意すること!」で、早々にテントに収まったのでした。

(尚、私めの連れ合いは、バーベキューも口にせず、テントにも泊まらず車中泊。何分「職業病」で、付き合いの悪さはご勘弁下さい。女房の同期会についてくる点は感心してやってね。)

8月3日。「2時だよー」。意外に子供達もさっと起き、「おなかすくよ」で飯盒飯のお握り…昨日よりますます固くなった(誰かの水加減のせいという噂)お握りを素直に食べていました。舟田隊長を先頭に、懐中電灯がポツポツ点滅する伊吹山へゴー。満天の星に、上がる程に広がる夜景が何ともグー。大人達の方は「2時起きだの、1時起きだのってやったねえ。」「3ピッチ目ぐらいでやっと懐電がいらなくなったり」と、山に登って一層思い出にひたっています。子供の口から「気持ちよかった」「山はいいな」が聞きたいものだけれど、子供の方はしっかり親に付き合われていると自覚しているようで…。

5合目には無人小屋が、あとも1合目毎に広場状になっていてピッチもと易い…しかし、しかしガスに包まれ出したのでした。しまいには5m先も真っ白。懐電の光跡が浮かび上がり、髪がびしょりになり…明けゆく空の感動を味わわせたかった親にはがっかりの天候。まあこれも貴重な体験、かえって訳のわからんうちに登れたかもと、親心はなおも悔し紛れの講釈を述べるのでありました。

9合目で2時間経過、子供達の我慢もそろそろ限界か?のあたりで道はすっとなだらかになり、頂上部に達しました。小屋がぼーと浮かび上がり、仮眠の人達が丸太のようにならび…そんな中、わずかの傾斜を手がかりに草原を進むと大和タケルの像の前に達しました。あと数分でご来光の筈が…。いったいどこがうすら明るくなってくるものか?これも判別できず。



行動食を分け、懐電を納め、防寒着を着込み見渡すと、さすがに日の昇った明るさの中で白露の奥に何重にもなった人垣を認めることができました。反対側の伊吹山ドライブウェイからあがってくる人で、山頂の方がずっと人口が増えるとの宇野さんの説明どおりでした。栄光の登頂者で記念写真。清水家は裕介君が代表。昨日飲み過ぎたお父さんは数m歩いてはオエをやっていて「まだ来ないよう」でした。ええやない。小2息子は立派に自立してるよ。

執念で測候所脇の一等三角点を見つけ、ここでようやく中空に浮かぶ日輪を寸時確認。それ万歳。これで見た見た帰ろう、と下山開始。清水パパとも無事すれちがいました。

さらに数分下りたところで、ずっとガスが切れたし、お花畑が広がり始め、舟田さんちは頂上へ引き返しました。これやっぱりガイドブック執筆の習性。チャンスがある限り確認してこなくては。さっきとは雲泥の差の光景が広がります。これだからガスは怖い。お花畑が朝露にキラキラ光り、その真下には大駐車場が見えます。1377mの標高でありながら(当たり前だけれど高三郎より低い)これほどのお花畑が広がり、雲海も楽しめるなんて。あんな半分割られた山…の評価がガラリと変わりました。主人の方もご機嫌で、「あの花撮ったか」とか「むこうをバックに撮りゃどうや」とか。お花畑コース側へ迂回してから下山路

に戻りました。登りの時は闇とガスで気付かなかったけれど、そこらじゅうの斜面が、ナデシコ、コオニユリ、ソバナ、ホタルブクロ、シモツケソウといった花でいっぱいなのでした。夏は白山と北ア、北上しても南下できるか！には、本当に驚きの山でした。

5合目で本隊と合流し、テントサイトへ。老体組がどれだけ朝食の準備をしているか？お米が研げた所でした。目玉焼きがスクランブルエッグになるなどいくつかの臨機応変をこなして、それぞれ自分の分を確保。正調「ご飯の歌」を高らかに歌い、子供達の冷たい視線を浴びるも、これこそ同期会。

あとはすることなく、睡眠不足を補いつつ、「かっぴ伊吹」の開幕を待ちます。なおも登山者はひっきりなしで、準備はどの程度なされるものなのか懸念するうち、高原ホテル前からの中継車のアナウンスで、第一走者の登場。さすが第一走者、悠然たる走りて駆け抜けていきました。その後、第二、次第に団塊状になり、女性に、老人に、

外国人に…いろんな体型、いろんなファッション…参加者は千人とか…。眼前を行くランナーには疲労の色が濃くなりはじめ、はるか先頭がガスの中へ消えていく頃には、ウォーカー軍がゆらゆら歩いているようになりました。

テレビなら、先頭集団を映すくらい…こんな先頭から終わりまでを眺めていたのは初めてです。トップグループになれる百人くらいはともかく、あとの人はそれぞれの夢で走っているのだろうなと思いました。私はこの後、やまざとの編集や、秋の小屋作業の準備を抱えている身でした。こんな暑い山を駆け登ろうなんて、そんなアホな夢を見ている人達をぞろぞろ見て、なんとも励まされてしまったのでした。

宇野さん有り難う。次回幹事は奥名さん。40周年とからめ、金沢で開催の予定です。

